

作業療法学専攻（健康科学部 リハビリテーション学科）

科目区分	悲愁 選択	授業科目の名称	講義等の内容	授業回数
------	----------	---------	--------	------

I 年前期

基礎科目	必修	心理学	心理学は心と行動の学問であり、意識化・無意識下での心理状態や行動様式を科学的な手法によって観察・研究するものである。本講義では心理学各分野の実験・調査を紹介し、その一部を実際に体験することによって、心理学の基本的な考え方と調査・実験の方法、技術を身につけることを目的とする。また結果の解釈や討論の過程で、自分を客観的に見つめる。	15回
		物理学	医療系の学生が物理は生物や医療の世界と深い関わりがあることを理解し、物理学の原理を理解することを目的とする。この原理や摩擦係数等特の基本的な物理原則から医療分野において必要となる「力学と人体」「流体と人体」「熱と体温」「音と光と人体」「電気と磁気」「原子と放射線」の物理的特性についても理解する。	8回
		健康科学	スポーツ、栄養、教育心理の3つの観点から学ぶ。健康維持にとってのスポーツの役割を正しく把握し、健康管理のための運動法を研究する「運動健康学」、栄養が身体にもたらす働きについて学び、よりよい栄養摂取を研究する「栄養管理学」、健康を保つために必要な心のケアや、指導法を研究する「健康心理学・健康教育学」などを概要として理解する。	15回
		健康とスポーツ	健康維持・増進のための運動やスポーツとその傷害について理解し、その予防について学ぶ。健康科学やスポーツ科学の研究や知見を理解することによって、さまざまな健康行動や身体活動に関する理解を深め、日常生活において健康科学やスポーツ科学に基づく行動を実践できるようになることを目標とする。	15回
		教育学 I	教育学の基礎を学ぶ。教育の本質、目的、内容、方法、さらに制度、行政など、教育現象のさまざまな分野、問題について基礎的に学ぶ。医療従事者としての教育的思考も身につける。内容は実証資料に基づく学習とフィールドワークを取り入れる。	15回
		情報処理 I	医療業務、研究等で必要となる基礎的な情報処理に関する知識と技法の習得を目指す。パソコン実習を行い、今後の調査、研究に必要な、情報処理に関する基礎的な知識と技法を習得する。	15回
		英語 I	スピーキングとリスニング活動を中心に自立的言語使用者を目指すよう言語コミュニケーション能力を養成、強化する。生活で出会うような身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。話し方が比較的ゆっくり、はっきりしているなら、時事問題や、個人的に興味のある話題について要点を理解することができる。最近の出来事など、日常生活に直接関係のあることや個人的に興味のある事について、準備なしで会話に入ることができる。意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができるよう学習する。	15回
	選択	生物学	生物および生命現象を対象とした、生命体の基本構造と機能調節を学習する。一分子生物学から生態学までの幅広い範囲の学問の中から医療系に関連する基本的な知識を含む、細胞分子学、遺伝子学、生体の刺激応答、恒常性維持および代謝、細胞の構造と機能、生物体のつくり等を理解する。	15回
		社会学	社会学は人間およびそれを取巻く社会事象を研究対象とし、現象の実態や原因となる因果関係を統計的な解釈で分析することを目的とする学問である。本講義では行動、行為、相互作用などのマイクロレベルから、家族、コミュニティ、組織、社会構造などのマクロレベルまで幅広く学習する。社会科学では社会を生物有機体との類比でとらえる社会有機体説を、社会学では歴史哲学的科学として捉えることで理解する。	15回
		IoT入門	授業目標はIoTを活用するための基礎知識を習得することを目指す。IoTが登場してきた経緯とIoTの仕組み、市場動向と産業・公共・家庭などいろいろな分野での応用事例、および、IoTを実現する多様な技術や課題について学習する。	15回
		プログラミング	プログラミングの基本要素を学びながら、手続的なプログラミングにおける論理的な思考能力及び実際のプログラミング能力の基礎を身につける。適宜、講義と演習を繰り返す。	15回
		哲学	哲学の基本的な諸立場について概観する。また、諸立場の方法論を議論する。また、それぞれの現代的意義を検討する。哲学・思想のレパートリーを概論で押さえながら、哲学とは何なのかを哲学の歴史をたどりながら学んでいく。そして、それぞれの哲学が誕生した背景となっている国や地域の歴史、文化、宗教などについて幅広く学習する。	8回
		生命倫理	医療の発達に伴い、倫理感是非常に重要である。本講義は、人の生命に関わる倫理的問題としては着床前診断等の遺伝子診断、人工妊娠中絶、代理母出産、脳死、臓器移植、安楽死・尊厳死、インフォームド・コンセント、終末期医療、看護倫理を題材に各項目について講義を展開し、学生の個性と照らし合わせ倫理観を養う。	15回
		人体構造学 I (骨・筋系)	人体を構成する骨格、関節靭帯、筋系の形態を機能に関連づけて理解を深めることである。内容は、人体の解剖学用語や人体の構成と発生などの解剖学総論、骨学総論から頭蓋、脊柱、胸椎、上肢、下肢の骨学各論、関節総論から角関節の構造と運動方向、筋学総論から各骨格筋の部位、起始停止、支配神経、作用について学習する。	15回
人体構造学 II (脈管・内臓系)	系統解剖学では消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系の4系統に所属する器官だけをとりあつかうが、本講義ではそれに加えて、(心臓及び脈管)循環器系について学習する。	15回		

作業療法学専攻（健康科学部 リハビリテーション学科）

職業専門科目	必修	人体機能学Ⅰ	生体に対する外部からの様々な刺激により、興奮・伝達・収縮という身体の反射・反応が起こる。また、自らの意思で身体運動を惹起・継続することができる。外的刺激を受取り脊髄・脳に練達する感覚系。運動に関する制御や自動化などを行う神経系と運動の動力装置にあたる骨格筋の仕組みと機能について学習する。	15回
		運動学Ⅰ	授業内容は、四肢・体幹の解剖学を基本として、身体各部の構造と機能に応じた運動について理解することである。内容としては、脊柱・股関節・膝関節・足関節・肩関節・肘関節・手関節と主部の構造および筋活動と動き、胸郭運動と呼吸について学習する。	15回
		リハビリテーション概論	授業目標は、リハビリテーション概念と流れの理解、障害モデルの理解、関係職種役割の理解とする。授業内容はリハビリテーションの概念をもとに健康と障害について教示し、特にICIDHやICFといった障害モデルについて理解を深める。また、医療チームとしての関連職種を知ることによりリハビリテーションの全体像を把握していく内容や最新のリハビリテーションの紹介をする。	8回
		作業療法概論	作業療法の歴史とパラダイムの変遷について理解を深め、作業療法の目的を正しく理解する。また、それらを踏まえた上で、人の健康の捉え方、作業についての知識の基礎と作業療法の理論を学ぶ。授業内容として、作業療法の定義や理論、作業の意味や作業を通じた人の捉え方、社会状況や法・制度、他職種連携、作業療法の過程と身体障害、精神障害、老年期、発達障害の各領域の対象者と、急性期から生活期までの実際等を学習する。	15回
		作業療法見学実習	医療人としての接遇・態度を身につけること、そして作業療法の対象となる人や疾患像を明確にすること、作業療法における施設特性を理解することである。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で、作業療法過程と対象者の関わり方を見学する。また、その施設の関連職種の業務や患者・利用者への関わり方の違いやチームアプローチについて理解する。その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。	15回

1年 後期

基礎科目	必修	統計学	本講義ではPCを利用しデータをとり扱い、見やすい表の作り方やグラフの作り方から、検定・推定などの手法に関する授業を行う。統計学の基礎的な考え方、標本と母集団との関係、およびデータの種類と表現形式について学ぶ。また、よく用いられる統計的な検定方法をPCにて学修する。	15回
		教育学Ⅱ	教育社会学における基礎的な学説に学ぶ。また学校制度・学級経営を背景にした教育問題について社会学的に学ぶことを目的とする。ライフステージの質を考え人間生活の健全なあり方について探求し、解決へのプログラムを考える。調査データ、フィールド調査ビデオも視聴して豊かに学ぶ。参加学生が作成したプログラムのプレゼンテーションを行う。	15回
		老年学	老年期にみられる障害の特性を理解するため、老化のメカニズムや高齢者の生理的特性を学習する。老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化、高齢者を取りまく地域の問題についても幅広く解説する。また、加齢に伴い特徴的に現れる疾患・障害について、基礎的な学習する。	8回
		英語Ⅱ	リーディングとライティング活動を中心に自立的言語使用者を目指すよう言語コミュニケーション能力を養成、強化する。授業目標は非常によく使われる日常言語で書かれた内容なら理解でき、身近で個人的に関心のある話題について、つながりのある内容を書くことができる。経験や印象を書くことができるよう学習する。	15回
	選択	法学	本講義では法に関する基礎的に捉える基礎法学と実際の問題に対して実定法に関して捉える実定法学を幅広く学習する。基礎法学では法史学、比較法学、法社会学を中心に学習し、実定法学では公法(日本国憲法・医事法)、民事法(民法・労働法・消費者法・知的財産法・刑事法)を中心に学ぶことで最終的には法と社会のかかわり方について理解する。	8回
		情報処理Ⅱ	今後の専門学習において必要とされる基本的な情報リテラシーを学ぶ。情報の利活用に必要な情報処理や機器の基礎事項並びに情報倫理等について理解する。到達目標は情報機器を操作できるとともに情報の利活用に必要な基礎知識を修得する。	15回
職		人体構造学Ⅲ（神経系）	授業目標は、専門領域で学習する神経系疾患の理解するための基礎となる中枢神経系および末梢神経系について理解を深めることである。内容は、細胞と神経、中枢神経の構成、脊髄、脳幹、小脳、間脳、後頭葉、頭頂葉、前頭葉、側頭葉の構造とその機能について学習する。また、運動や視覚、聴覚、体性感覚の伝導路について学習する。	15回
		人体構造学実習	授業目標は、医学の基礎である解剖学、骨・筋の構造と機能について理解することである。内容は上肢の骨・関節・筋・体幹の骨・関節・筋について、骨実習や組織実習、体表解剖学などを通して学ぶ。学習目標は運動器系解剖学の基礎的知識を身につけ、それを骨標本・身体に適用することができるようになる。	15回
		人体機能学Ⅱ	人が活動するために必要な、消化器系、呼吸器系、循環器系、泌尿器系、体温調整、生体防御機能について理解することである。内容として、細胞機能（遺伝情報や分泌など）、筋の分類と機能、骨代謝、消化器系（咀嚼、嚥下、消化と吸収）、肝臓・胆のう・膵臓の機能、栄養と代謝、呼吸（喚起、外呼吸、ガス運搬、内呼吸）、心臓（刺激伝導路系、心電図）、循環器（血圧、末梢循環）、泌尿器系（腎臓の機能、排尿）、体温調整（水分、電解質、pHの調節）、体温調節、生体防御機能について学習する。	15回
		人体機能学実習	授業目標は、血液、内分泌系、生殖系、感覚器、中枢神経系、筋生理について理解することである。授業内容として、血液（造血、止血、凝固）、内分泌機能（ホルモンの種類と作用機序）、生殖器（男性、女性）、神経細胞の構造と機能、感覚器系（体性感覚、内蔵感覚、特殊感覚）、筋（筋収縮のメカニズム、筋電図）について学習する。	15回
		運動学Ⅱ	授業目標は、人の身体運動の力（モーメント）と言ったバイオメカニクスに関する知識および、モーメントとの釣り合いとその力学的分析から身体運動の理解を深めることである。授業内容として、バイオメカニクスの基礎知識として、滑車、ベクトル、時間、速度、関節モーメント、重心、仕事、運動連鎖、立ち上がり動作とモーメント、正常歩行の基礎知識、歩行時の床反力と関節モーメント、歩行時の筋活動などについて学習する。	15回

作業療法学専攻（健康科学部 リハビリテーション学科）

業 専 門 科 目	必 修	人間発達学	人の一生を「生涯発達」の視点で捉え、誕生から乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期を経て、生涯を終える過程で生じる生理的（身体・運動）、心理的発達について学習する。これにより、人の支援に関わる専門家が習得すべき人間行動理解の基礎を形成することを目的とする。	15回
		病理学	授業目標は、疾患と症状の意義と分類、病因となる内因と外因を踏まえ、退行性病変、循環障害、進行性病変、炎症、免疫疾患、アレルギー疾患、腫瘍、先天性異常などに含まれる主要疾患について理解することである。具体的に疾患の原因、経過、本能、他疾患との鑑別、治療効果などについて、細胞、組織、臓器などの形態の変化から学習する。	15回
		社会福祉学	授業目標は、社会福祉に関する基本的知識の獲得である。前半は講義を中心とし基本的知識（歴史、理念、法体系、社会資源、その他）をテーマとする。後半はグループワークを用い、各グループで関心のある社会福祉のテーマを決め、そのプレゼンをすることで理解を深める。	15回
		医療関連法規	医療サービスは、国民の生命や健康に直接影響を与えるサービスであるとともに、多くの国家財源が投入されている非常に公共性の高いサービスであることから、様々な法律による規制が行われており、これらの法規制を無視して、医療サービスを提供することはできない。そこで本講義では、わが国の医療サービスに係る法律について解説するとともに、近年、医療分野で問題となっている法律問題について考えていく。	15回
		基礎作業学	授業目標は、作業活動における基礎的な構成要素を理解できることとする。授業内容は、人が作業を行うことによる、環境からの影響、身体機能や精神機能からの影響や関係性について理解を深めていくことである。	15回
		作業療法評価学総論Ⅰ	授業目標は、分野を超え、作業療法における評価の流れや評価の重要性について理解を深めることである。授業内容は、作業療法評価の目的と意義、評価の過程、各分野で必要な作業療法評価の基本的な知識を深める。	15回

2年生 前期

職 業 専 門 科 目	悲 愁	体表解剖学演習	授業目標は、体表解剖学で学習した内容をもとに、骨、関節、筋の触診技術修得と触診を通して皮膚下の組織の形、大きさ、硬さ、位置、走行、運動性の理解を深めることである。内容として、演習を通して上肢帯、肩関節、肘関節、前腕、手関節、手部、下肢帯、股関節、膝関節、下腿、足関節、足部、脊柱、骨盤の角部位の触診法と四肢体幹の触診法と四肢体幹の機能解剖について学習する。	15回
		運動学実習	授業目標は、運動学で学んだことを基盤として、正常な姿勢や運動を観察し、運動学的視点から運動障害分析能力を養い、評価から治療に至る仮説検証過程を理解することである。内容としては、姿勢観察と分析、姿勢の評価、肩甲帯・上肢の観察と分析、骨盤・下肢の観察と分析、寝返り、起き上がりの運動観察と分析、立ち上がりの運動観察と分析、歩行の運動観察と分析、姿勢や歩行に見られる異常姿勢と運動分析について学習する。	15回
		内科学	医療に携わるにあたり、内科疾患の基本知識は必要不可欠である。授業目標は内科の診断法、検査、循環器・呼吸器・消化器といった主要な疾患について知識を修得することである。内容としては診断法、身体診察、バイタルサインなどの診断学、循環器・呼吸器・消化器などの主要兆候とその検査、遺伝子異常・染色体異常・老化・主要などの病態、呼吸器疾患の兆候と診断、循環器疾患の症候と診断、消化器疾患の症候と診断などについて学習する。	15回
		神経内科学Ⅰ	授業目標は、神経内科疾患とその治療について理解することである。授業内容として、神経症候群の概要や主要な神経疾患である脳卒中、パーキンソン病などの神経疾患、筋ジストロフィーなどの筋疾患、難病など、リハビリテーションの対象になることの多い疾患について、病態、病理、症状、治療、予後について学習する。	15回
		整形外科Ⅰ	授業目標は、リハビリテーションの対象となる整形外科疾患の病態、診断と治療について理解することである。整形外科Ⅰの内容は、整形外科の対象疾患と診断、総論および、各論として関節リウマチ、慢性関節疾患、循環障害、骨粗鬆症などの代謝性骨疾患、骨腫瘍、整形外科的神経疾患などの病態と診断・治療について学習する。また、治療については保存的なものから手術を中心とした外科的療法まで多岐にわたることから、基本的な考え方やその特殊性を理解できるように学習する。	15回
		小児科学	小児のリハビリテーションを行う上で、理学療法士・作業療法士に必要な小児神経学および小児科学関連領域の基礎を学習する。また、リハビリテーションの際に理学療法士・作業療法士が理解すべき小児科疾患を概説する。	15回
		臨床心理学	授業目標は、心と体、心と生活、心と対人関係の繋がりを考察し、心理的問題のアセスメントと治療的アプローチについて学習することである。内容として、臨床心理学の位置づけ、定義、概念、心理規制、対象疾患等について学んだあと、心理検査、心理療法を中心に臨床現場での心理学手法について学習する。	15回
		予防医学	現在の日本では、ライフスタイルの変化、高齢化、ストレス過剰、環境汚染などを背景として生活習慣病や心の病が増加している。予防医学は、健康維持・増進や疾病の発症・再発の予防に向けて、その考え方や知識、方法や施策について理解を深めることを目標とする。授業内容として、健康増進と予防医学の概念、健康問題と施策、高齢化社会と介護予防、生活習慣と予防、運動と予防、ストレスとメンタルヘルスなどを学習する。	15回
		作業療法研究論	授業目標は、臨床家となってから作業療法研究ができるための研究手法（質的、量的研究）の基本的な手続きを学ぶことである。特に臨床研究で必ず取り組む事例報告書の手続きを学び、実際に臨床実習で経験した事例についてまとめる演習を行なう。形式は、日本作業療法士協会の事例登録制度のフォームを用いる。最終的に事例発表会を行う	15回
		作業療法評価学総論Ⅱ	授業目標は、分野を超え、作業療法における評価の流れや評価の重要性について理解を深めることである。授業内容は、作業療法評価の目的と意義、評価の過程、各分野で必要な作業療法評価の基本的な知識を深める。作業療法評価の分析解釈方法を病気別に理解する。	15回

作業療法学専攻（健康科学部 リハビリテーション学科）

		作業療法評価学実習	作業療法で用いられる基本的な技術が修得できることとする。内容として、作業療法場面における面接や観察、オリエンテーションを含めた各検査測定の方法について教員の実演を通してモデル提示を行なう。一定時間の実技練習と指導を重ね、臨床実習に向けてスキルを確認し、加えて自ら学ぶ姿勢も身につけていく。臨床実習の前後に実施する客観的臨床能力試験（OSCE：Objective Structured Clinical Examination）についての説明を行なう。	30回
		作業療法評価学Ⅰ	講義の目標は、作業療法における検査測定の基礎知識と方法の理解、各検査測定の目的や意義を説明でき、検査測定を実施できることである。評価学Ⅰでは身体構造に関連する検査を中心について学ぶ。授業内容は、作業療法の評価における各検査を体験を通して理解を深めていく。実技を通して基本的な技法を学んだ内容を小テストや実技テストを通して確実に知識・技術が身に付いていることを確認しながら進めていく。	15回
		作業療法体験実習	学内外で学んだ内容を活かし、臨床実習指導者の指導の下で、見学と対象者との会話等においての体験を行う。また、チームの一員として問診、授業で履修している作業療法評価を共同参加により作業療法過程を体験する。その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。その内の1週間は、通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションにおいて行う（1単位）。	2週間
展開科目	必修	ふるさと・紀州学	学習目標は現状の健康・福祉・医療について地域が直面する問題を取り上げ、地域の理解を深める。地域創生を概念に持ち専門職として何ができるかの探索を行い授業を展開する。授業内容はグループワークでの課題解決に導けるよう組み立てる。	15回
	選択	経営と会計	学習目標は経営者としての知識を身につけるべく、経営と会計の基礎を学ぶ。例を挙げると、決算書には経営者の考えや日々の行動が「数字」という形で反映される起業を目指している方、これから経営に携わる方向けに、ここでは「数字」を理解する上で必要な会計知識をご紹介します、中身を読み解き、銀行の担当者や投資家からの質問に答えられるように準備する。	15回
		医療経済論	医療制度を扱う経済学の応用分野である。経済学の基礎をまなびながら、医薬品・医療保険など医療にかかわるさまざまなことを経済学的手法を用いて分析することを学修する。	15回

2年生 後期

職業専門科目	必修	神経内科学Ⅱ	授業目標は、脳神経疾患とその治療について理解することである。具体的には、脳腫瘍、脳血管障害、頭部外傷、中枢神経系の奇形、水頭症、脊髄・脊椎腫瘍など、リハビリテーションの対象となることの多い疾患について、診断と治療法の概要やその経過について学習する。	15回
		整形外科Ⅱ	授業目標は、整形外科Ⅰで修得した整形外科の基礎知識をもとに、部位別疾患と外傷学について理解を深め、その病態理解に必要な解剖やバイオメカニクス、診断と治療について理解することである。授業内容として、手と手関節、頸椎と胸椎・腰椎、股関節、膝関節、足関節などの各部の機能解剖と病態、その診断と治療について学習する。また、外傷や軟部組織損傷、骨折や脱臼などの病態と診断・治療について学習する。	15回
		精神医学	授業目標は、臨床に必要となる精神医学の基礎知識を理解することである。総論では、診断基準、精神疾患の分類、用語の定義を中心に理解を進める。各論では、疾患別に疫学から治療法について理解を進める。また、実際の臨床現場での事例をとおして、精神科領域でのケアマネジメントの理解を進める。	15回
		臨床栄養学	栄養は健康の保持・増進に密接に関わり、その過不足やバランスの偏りは疾病を引き起こす要因となる。高齢者や疾病者および障害者においても、治療やリハビリテーションの効果を最大限に発揮するためには個々の状態に合わせた栄養状態を整える必要がある。栄養学では医療現場での栄養療法を理解するために必要な栄養学の基礎知識を習得することを目標とする。授業内容は、栄養状態の評価と判定、糖質・脂質・タンパク質の三大栄養素と代謝、栄養素の消化と吸収、栄養ケアマネジメント、ライフサイクルと栄養、健康づくりと食品・食事・食生活などについて学習する。	8回
		救急援助論	授業目標は、医療に関わる職種として生命を脅かす病態の兆候を示す患者への医学的な初期対処法を理解し実施できることである。授業内容として、普通救命の基礎、救急医療を必要とする疾患とその兆候、ショックや意識消失時などの生体反応と対応、死に直結する疾患とその兆候、整形外科領域の病態と初期対応などについて学習する。	15回
		基礎作業学実習Ⅰ	授業目標は、手工芸を中心とした作業を行うことで、生活の中での作業の持つ意味を理解し、様々な作業活動の行程、特徴、工夫点など作業療法の視点で作業活動を知ることができるようになること、様々な作業活動を通して、作業活動の分析の基礎を身につけ、作業活動の活用の視点を知ること目標とする。授業内容は、作業活動のうち革細工、マクラメなどの作業活動を用いて作業遂行要素に関する作業分析を行ない、レポートにて考察することで理解を含めていく。	15回
		作業療法評価学Ⅱ	講義の目標は、作業療法における検査測定の基礎知識と方法の理解、各検査測定の目的や意義を説明でき、検査測定を実施できることである評価学Ⅱでは身体機能に関連する検査を中心について学ぶ。授業内容は、作業療法の評価における各検査を体験を通して理解を深めていく。実技を通して基本的な技法を学んだ内容を小テストや実技テストを通して確実に知識・技術が身に付いていることを確認しながら進めていく。	15回
		福祉用具学	授業目標は、①福祉用具や住宅改修に関わる社会制度を知る、②作業療法士の役割を理解する、③各福祉用具の特徴を理解し、障害に合わせた福祉用具の選定、適応ができるようになる、④住宅環境整備において家屋評価、製図、改修案が立案できることである。授業内容は、起居、移乗、移動、食事、整容、排泄、入浴、更衣、家事動作、コミュニケーション、環境制御装置などの福祉用具について、障害や疾患に対応させながら講義、演習を行なっていく。	15回
		身体障害作業療法学実習Ⅰ	授業目標は、整形疾患や脊髄損傷による生活障害を持った人への作業療法を説明できることおよび、疾患の理解をし、評価と治療の構造を説明できることとする。授業では各種疾患の理解を、その病態像に応じた評価方法論を教示するとともに、治療実施に至る思考プロセスを提示し理解を促すことを中心に授業展開を行なう。また、治療方法論では臨床で用いられやすい方法論、最新知見に基づいた方法論を説明していく。	15回

作業療法学専攻（健康科学部 リハビリテーション学科）

		身体障害作業療法学実習Ⅱ	授業目標は内部疾患や難病などの各障害におけるメカニズムの理解および、基礎的な評価方法と治療について説明できることとする。授業内容は、特定疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝性疾患、悪性新生物の基礎知識とリスク管理、作業療法介入について学習をする。また、喀痰吸引についても実技を通して学習する。	15回	
		日常生活活動学	①日常生活活動、疾患、症状と日常生活活動の基礎知識について理解し、標準化されたADL検査を実施できること、②日常生活の支援をするための治療的技術を選択できるようになること、③ICFの概念に基づき日常生活障害に影響する様々な要因を理解し解決策を説明できるようになることである。授業内容は、ADLの標準化された評価法（Functional Independence Measure、バーサルインデックスなど）の習得と臨床の評価に必要なADLの観察方法、基本的能力や環境との関連性を考慮した分析を学ぶ。	30回	
		地域作業療法学Ⅰ	①地域リハビリテーションの概念と歴史を理解する、②地域作業療法に必要な様々な社会保障制度を理解する、③地域リハビリテーションにおける作業療法士の役割を理解する、④地域作業療法に必要な疾患の知識、評価・介入の技術およびリスク管理を理解することである。授業内容は、地域作業療法に必要な訪問リハビリテーション、住宅改修の方法と制度、予防的施策とリハビリテーション職種の介入、ケアマネジメントについて講義を行う。	15回	
		作業療法評価実習	学内で学んだ各種作業療法評価とその考え方をベースにし、臨床での作業療法評価の体験を通して、作業療法における臨床思考過程を学ぶこととする。特に、作業療法評価後の目標設定や治療プログラムの立案にあたっては臨床実習指導者の思考過程を具体的な教示を提示してもらい理解を進める。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』の各レベルにおいて、チームの一員として作業療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。	1週間 2回	
		選択	チーム医療論	授業目標は、多職種で協働し連携していくために必要なチームワークの基礎を学習する。そのために、第一に人と人が協働して物事を達成することの基本を学ぶ。次に、保健医療の歴史と現状を概観することを通じて、協働や連携がどのような過程で発展してきたかについて理解を深める。また、医療福祉現場で起こりうる連携の問題を身近な例を通して理解できるようにする。	15回
			トータルヘルスプロモーション	授業目標は、働く人すべてを対象にした「心とからだの健康づくり運動」を理解することにある。専門職としてトータルヘルスプロモーションにどれだけ関与できるか、厚生労働省が策定した指針に沿って学習する。また、授業後半は身体面の管理だけでなく、働く場としての人員不足などの管理体制や日本の企業でみられている様々な問題点にも踏み込んだ内容でグループディスカッションを行う。	15回
展開科目	必修	組織論	経済学を通して組織における仕事の分担の仕方、協働の仕方を研究し、そのなかで管理の重要性を理解し、具体的方法について学修する。特に強制的な管理方法と配慮型の管理方法について理解を深め、現場における応用力を高める。	15回	
		地域活性企業論	地域活性化で注目を集めた地域の取り組みと、そのなかで企業はどのようにして、その役割を果たしてきたかを検証する。地域の特性を十分理解したうえで、具体的な地域活性の道を探り、自治体と企業に提案していけるような人材の養成を行っていく。	15回	
		リーダーシップ論	各々の領域において、関連分野の他職種と連携して問題解決や新たな課題に取り組んでいくために、リーダーシップを発揮する機会がある。リーダーシップは社会生活において身近なテーマでありながら、自ら行おうとすると複雑な人の心理や行動を科学することも必要な深遠な要素を含んでいる。リーダーシップはその時代状況や社会環境を反映し、変化と進化を続けてきた。過去から現在までのリーダーシップの変遷を整理しつつ、これから未来へ続く変化に対応できるリーダーシップについて、講義の他、常に自らの問題として捉える演習を行いながら学ぶ。	15回	
	選択	地方自治と生活	本講義では、地方自治の法としくみを学ぶ。地方自治は近年、大きく変動してきた。地方自治の行方は、まちづくり、地域福祉、環境保全といった地域の具体的・現実的な課題として、私たちの日々の生活にも直接かかわってくる。地方自治・地方分権をめぐる近年の動向や今後の展望を、これからの地域に生きる自分自身の関心事として捉えてもらいたい。	15回	
		ソーシャルスキル論	ソーシャルスキルとは社会の中で自立し主体的であるとともに、他の人との協調を保って生きるために必要とされる、生活上の能力である。本講義は地域の保健・医療・福祉・介護および行政等と連携協力することのできる人材養成を行う。加えて、その人らしく生活するためのヘルスケアサービスについても学修する。	15回	

3年生 前期

		臨床薬理学	授業目標は、薬剤の目的、効能、使用方法、禁忌事項などについて理解することである。具体的には、薬剤の使用目的については、疾患の原因を取り除く原因療法、体内に欠乏する物質を補う補充療法、ワクチンなどのような予防接種等について学習する。また、高血圧、糖尿病、精神病など、リハビリテーションの対象となる疾患のための薬物については、訓練との関係から禁忌事項などについても学習する。	8回
		臨床・画像診断学	理学療法士・作業療法士にとって臨床現場で必要となる主な対象疾患・外傷のX-P、CT、MRIなどの画像について、読影の基本を学び、正常像と異常像の違いや各画像の見方・読み方などを理解し、対象患者の病変・損傷部位とその性質や症状との関連性を理解できる能力を養う。	15回
		身体障害作業療法学Ⅰ	授業目標は、脳血管障害による生活障害を持った人への作業療法を説明できることおよび、疾患の理解をし、評価と治療の構造を説明できることとする。授業では各種疾患の理解を、その病態像に応じた評価方法論を教示するとともに、治療実施に至る思考プロセスを提示し理解を促すことを中心に授業展開を行なう。また、治療方法論では臨床で用いられやすい方法論、最新知見に基づいた方法を学ぶ。	15回
		身体障害作業療法学Ⅱ	高次脳機能障害のメカニズムの理解および、基礎的な評価方法と治療について説明できることとする。授業内容は、注意障害、遂行機能障害、失行症、失認症、半側空間無視、失語症を中心として症状発現に関するメカニズムと評価治療について講義を進めていく。また、脳血管障害から起こる生活障害についてICFを用いて理解し、治療プログラムの立案までの一連のプロセス理解を促す。実際の症状と日常生活への影響の理解を促すために動画媒体を用いて授業を進めていく。	15回

作業療法学専攻（健康科学部 リハビリテーション学科）

職業専門科目	必修	発達障害作業療法学Ⅰ	発達障害領域の脳性麻痺を中心に障害特性、発達特性、家族支援や作業療法過程とその評価と治療・支援などを理解する。授業内容は、脳性麻痺の概要と類型別特徴、痙直型四肢麻痺、痙直型両麻痺、痙直型片麻痺、アテトーゼ型、失調型、混合型の特徴と評価、治療支援について、重症心身障害児（者）の概要とその評価と治療支援などについて学習する。	15回
		精神障害作業療法学Ⅰ	授業目標は、精神障害に対する作業療法評価から治療計画の立案を理解すること、作業療法の対象となる精神疾患について理解し、作業療法治療援助の知識を習得することである。授業内容は作業療法の基本構造、評価プロセスの学習、疾患別作業療法として統合失調症、気分障害などを学習する。授業の中で実際に評価を体験し、ICFを用いて統合と解釈の流れについて学ぶ。	15回
		老年期障害作業療法学Ⅰ	①高齢者の現状、高齢社会到来の経緯と社会制度の変化を理解する、②加齢による高齢者の一般的特徴を理解する、③老年期に多い各種障害・症状および一般的評価方法を理解する、④老年期に多い各種疾患に対する作業療法の評価・介入方法を理解することである。授業内容は、高齢社会到来の背景と高齢者の現状を述べ、老年期障害の一般的特徴、生理機能の変化、高齢者に多い症候（転倒、排尿障害、心疾患、肺疾患、認知症、パーキンソン症候群、廃用性症候群など）を講義し、作業療法の評価と介入方法を教示する。	15回
		日常生活活動学実習Ⅰ	日常生活活動の構成要素を理解できること、日常生活活動に関わる作業療法評価と治療的介入について説明ができるようになることとする。構成要素の理解では、食事・排泄・入浴・整容・更衣について物理的特徴や文化的特徴、動作的特徴などに分類し、グループワークを通して分析を進める。その分析内容は発表会を持って全体に広めていく。	30回
		日常生活活動学実習Ⅱ	一般的な起居動作の動作分析ができることと、作業分析が理解できることとする。授業内容では、作業療法独自の観察評価について理解を進める。後に健常者や臨床の対象者動画を通じて数例の作業分析を進めていく。また、2つ目の基本動作の分析では、寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行についての基本動作分析を行なう。それぞれの動作に伴う分析ポイントを教示し、学生間の演習を通じてさらに理解を深めていく。その後、全体に共通の事例を提示し、知識を用いながら分析を進めていく授業展開とする。	15回
		地域作業療法学Ⅱ	地域活動実践者による講義を通して、身体障害者、精神障害者、発達障害者および老年期障害者に対する多様な地域活動の実際と作業療法(士)の役割を学ぶことである。授業内容は、地域の様々な領域を総合的に学習し、地域における作業療法の理解を進めることである。	15回
		作業療法評価実習	学内で学んだ各種作業療法評価とその考え方をベースにし、臨床での作業療法評価の体験を通して、作業療法における臨床思考過程を学ぶこととする。特に、作業療法評価後の目標設定や治療プログラムの立案にあたっては臨床実習指導者の思考過程を具体的な教示を提示してもらい理解を進める。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』の各レベルにおいて、チームの一員として作業療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。	4週間
展開科目	選択	障害者スポーツ演習	障害者スポーツについて、実技演習を交えて学ぶ。障がい者スポーツの意義と理念を理解し、身体障害、知的障害、精神障害とスポーツについて理解を深めるとともに、日本国内における障がい者スポーツの現状と指導者育成制度について学ぶ。また、障害に応じたスポーツの工夫や、障害者スポーツ指導者について理解する。初めてスポーツを行う方に対して、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援できるような知識と技術を身につける。	15回
		地域健康支援の現状と課題	健康寿命の延伸が社会的に問われる中で、地域における健康支援（健康維持・増進、疾病・介護予防）の取り組みは、和歌山市の一例として「チャレンジ健康わかやま」が掲げられている。また、介護予防では、総合事業として民間委託やボランティア活動も含めて実施されている。このような健康維持・増進、疾病予防、介護予防の活動の現状を調査し、実際にボランティア等として参加することも含めて体験する。その中で、その課題を発見し解決策を考案しレポートを作成する。	15回
		産業保健論	産業社会の下、働く人々の健康を保持増進し、快適な職場環境を形成していくための産業保健活動とはなにかを理解することを目的とする。産業保健の世界の趨勢から、日本のヘルスプロモーションと健康支援環境、現在の日本の働く人の健康課題として、業務上疾病、産業疲労、過労死問題に加えてライフスタイルの変化に伴う生活習慣病の増加、職業性ストレスの増加に比例した精神疾患に対する産業保健活動と産業保健スタッフとの連携を学ぶ。	15回
展開科目	選択	医用・福祉工学論	医用・福祉システムの実用化のためのシステム論、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術が必要不可欠であることを理解する。	15回
		発達障害児・者の現状と課題	「気になる子ども」や「発達障害児・者」の家庭、保育、教育、就労の現場において「特別な支援」や「配慮」について課題となっている。発達障害は2005年に発達障害者支援法で定義され、知的な遅れの有無や、その他の部分で重篤な困難さをもっている場合もあり、その障害の程度も様々である。そのため、施策が講じられているが、充分に対応できているとはいえない。関連領域、例えば家庭、保育、教育、就労の現場において発達障害児・者のおかれている現状を調査し、その課題と解決策を考案しレポートを作成する。	15回

3年生 後期

		地域包括ケア論	現在、日本は人口の減少と少子高齢化が進む中で、住み慣れた地域で医療と福祉サービスが提供される地域包括ケアシステムの構築が課題となっている。地域包括ケア論では、その地域包括ケアシステムの制度や地域の現状と課題の理解を深め実践の在り方について理解することを授業目標とする。授業内容として、現在の日本や地域社会の現状、地域包括ケアシステム概念と制度、地域包括ケアを支える専門職と地域住民の役割、地域包括ケアセンターの機能と役割、各地の地域包括ケアシステムの現状と課題、事例を通して地域包括ケアシステムの構築に向けた方法を学習する。	15回
		基礎作業学実習Ⅱ	作業療法の治療として多く用いられる作業活動種目について、治療的視点を持ちながら、対象者が手順や方法を理解し遂行できるように指導ができるようになることである。授業方法は、木工、モザイクなどの作業種目を提示し、グループにて作品を完成させる中で行程分析を行い作業種目の治療的視点、他者に指導できる教授方法を検討し、レポートにまとめていき、実際に他者に教授するまでをおこなう。	15回

作業療法学専攻（健康科学部 リハビリテーション学科）

職業専門科目	必修	作業療法管理学	授業目標は、より質の高い作業療法を提供するため、保健、医療、福祉に関する制度（医療保険、介護保険制度など）を理解すること、および、組織運営に関するマネジメント能力を養うことである。日本作業療法士協会の白書やガイドラインを用いて、職場環境がイメージできるように講義を行う。	15回
		作業療法義肢装具学	授業目標は、義肢道具の種類や構造や機能の理解、対象者への適合判定、臨床に必要な解析力などの知識を深めることである。授業内容は、義手、義足の適応疾患、上肢装具、下肢装具、体幹装具について、義肢装具と日常生活との関連性の講義および、スプリントの作成を行なう。	15回
		発達障害作業療法学Ⅱ	発達障害領域の知的障害や自閉スペクトラム症などの障害特性、発達特性とその作業療法評価と治療・支援について理解する。内容としては、知的障害、自閉スペクトラム症、注意欠陥多動性障害、学習障害などの特徴とその評価やライフステージに合わせた治療支援、感覚統合障害の評価と治療支援について学習する。	15回
		精神障害作業療法学Ⅱ	授業目標は、精神障害に対する作業療法の治療目標と具体的な医療計画立案について理解できるようになることである。作業療法の対象となる精神疾患について理解を深め、作業療法治療援助を実践するための知識を修得することである。授業内容は、精神障害作業療法学Ⅰで学んだ精神科作業療法の視点、治療、援助構造、評価について、事例を用いてその関連性を統合できるように理解を進める。	15回
		老年期障害作業療法学Ⅱ	授業目標は、認知症に対する病態理解、症状および一般的評価を理解し、作業療法の介入方法を理解することができることである。授業内容として、認知症に対する作業療法士の役割および形態、作業療法プロセス（評価・統合と解釈・目標設定・目的とアプローチ、実施方法）、作業療法治療理論、家族や多職種との連携について説明を行なう。	15回
		地域作業療法学実習	授業目標は、地域活動実践者による講義を通して、身体障害者、精神障害者、発達障害者および老年期障害者に対する多様な地域活動の実際と作業療法(士)の役割を学ぶことである。授業内容は、地域の様々な領域を総合的に学習し、地域における作業療法の理解を進めることである。	30回
	選択	応用評価学演習	授業目標は、3年次までに修得した評価法とともに海外で用いられる評価法も取り入れ、さらに患者の状態の理解を把握する。各種検査の注意点を理解し、学生同士で正確に実施する。その他、臨床場面を意識して、ペーパーペイシエントを用いた演習で障害構造について演習を行う。必要に応じてグループ学習を行い、他者との関わりの中で思考を深める。4年次の理学療法総合臨床実習の前後に実施する客観的臨床能力試験（OSCE）の説明を行う。	15回
		専門手技療法学演習	授業目標は、機能解剖学からみた関節および筋の治療法を用い、手技技術の向上を目指すものとする。立位姿勢。歩行姿勢など身体における症状の把握を行い、問題点の列挙、検査測定ののち、手技を用いた、治療法立案とする。仮想の患者を想定し、ディスカッション後に指導する。	15回
		高次脳機能障害の治療法	授業目標は、作業療法士・理学療法士が知っておく必要がある高次脳機能障害のスクリーニング検査や理学療法中の注意事項やアプローチ方法などを講義やグループワークで学ぶことである。特に高次脳機能障害について、病巣や症状を理解することができるようにする。	15回
		認知症の理解とその支援	授業目標は、認知症の疫学やその分類、症状と、認知症の人を取り巻く社会背景を理解することにより、認知症の人のその人らしさを尊重した専門職としての支援方法を考える力と態度を養うことである。	15回
		レクリエーション活動演習	授業目標は、レクリエーションの対象・効果を理解し、病状の軽減や活動量の増加を目指す内容、すなわちリハビリテーションに通じるように用いる技術を体得することである。レクリエーションの種類、内容の紹介から始まり、対象者に応じて実施できるよう演習する。	15回
		ハンドセラピー演習	授業目標は、ハンドセラピーに必要な基礎知識および技術を習得することである。ハンドセラピーに関する基礎的な機能解剖などの知識と技術について講義・演習・発表を通じて主体的に学習する。興味を持った疾患、外傷に対するスプリント製作する。	15回
展開科目	選択	地域防災論	和歌山県にいたる地震・津波・台風等の防災にかかわる内容の把握を行う。また災害で派遣される医療関連チーム（Disaster Medical Assistance Team：DMAT、Japan Medical Association Team：JMAT、Japan Rehabilitation Assistance Team：JRAT）の役割、活動等の理解を行う。	15回
		支援ロボット論	少子高齢社会に進む流れの中、誰にでも使いやすい生活支援技術が求められる。低侵襲性計測技術、ロボット技術による生活支援、健康支援工学の各分野における最先端の研究開発事例の工学的に解説を通じて、生活者と支援技術の関わりを理解する。	15回
		生涯スポーツ論	生涯にわたるスポーツをテーマとしてとらえ、子供から高齢者までの人生プランの視点から授業を行う。現代の社会・生活構造の変化を踏まえて多様化するスポーツの諸相について概説する。主として生涯スポーツの観点から、地域スポーツ、ニュースポーツの創造、総合型地域スポーツクラブ、スポーツと環境問題、グローバル世界とスポーツについて取り上げ基礎的に理解を深める。	15回
		地域連携研究	学習目標は和歌山を中心とした地域の連携を「観光」「都市づくり」「海外交流」の面からどのような連携を行っており、どのような課題があるのかを探求していく。特に持続可能な街づくりを中心に各企業やその他の団体の連携を調べ、研究していく。	15回
		アンチエイジング	世界有数の長寿国の日本は、余命だけでなく健康寿命が価値をもつ意味が大きく取り上げられる。本講義では加齢に伴う自らの身体の変化を理解するとともに他者の加齢変化に対する理解も重要となっている。そこで身体内部のミクロレベルの変化、地域、国レベルで見る環境を理解しながら、自ら積極的に健康を維持するために方策についての理解を深めることを目的とする。	15回

作業療法学専攻（健康科学部 リハビリテーション学科）

総合科目	選択	応用作業療法演習Ⅰ	総まとめとして、高齢者の地域生活支援を学修する。老年期地域健康増進活動における作業療法の立場からみた支援の実際について理解を深める。健康増進事業施設の見学、身体能力測定の見学などを通して、高齢者の生活不活発発病の背景や、チームアプローチによる解決手法を知り、作業療法士として必要なアセスメント能力と、生活の場において課題解決の視点と技法について学修する。	15回
		応用作業療法演習Ⅱ	総まとめとして、障害者の地域生活支援を学修する。障害者における作業療法の立場からみた支援の実際について理解を深める。作業療法評価から治療プログラムの立案の課程を再確認し生活に結び付けるための学習を行う。作業療法士として必要な評価能力と、治療学を用いた課題解決の視点と技法について学修する。	15回

4年生

職業専門科目	必修	作業療法総合臨床実習	8週間の臨実習施設2か所での作業療法支援の体験を通して、作業療法の臨床思考過程と実践方法を診療チームの一員として学び、作業療法評価の実施技能及し作業療法支援を検討できる。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』の各レベルにおいて、チームの一員として一部作業療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。	16週間
	選択	地域環境活動演習	授業目標は、地域で行われる活動に対して理学療法士の観点から支援方法を検討する。地域には、さまざまな活動が身近にあり、自治団体などの活動方法やボランティア活動も注目されており、自分の人生を豊かにするだけでなく、活力ある地域づくりにもつながる。その方法を演習形式で議論し、様々な問題に対する解決方法を模索する。	15回
		地域包括ケア演習	授業目標は、和歌山市で行われている自立支援について理解することにある。和歌山市では、自立支援を独自の定義化を行い、様々な取組を行っている。その取組に対して理学療法士の専門性を生かした支援を体験する。また、企画において学生らしい発想を持って新たな支援方法を検討してほしい。	15回
総合科目	必修	作業療法総合演習	学内で学んだ基礎医学・臨床医学・作業療法学の各分野について知識を整理し、国家試験出題形式の問題演習を通じて理解を深める。到達目標は、基礎医学・臨床医学・作業療法学の各分野における自らの不足点を認識し、学習計画を立案して実行し、作業療法士として必要な基礎的知識と実地問題を用いて技術等の再確認を行い、要求される以上のレベルに到達すること。	30回
	選択	専門職連携総合演習A	医療の高度化・複雑化に伴い各領域は専門性が高まっている。リハビリテーションは多くの専門職がチームを形成し患者・対象者に関わり、日常生活や社会参加の向上の為に関わる。この授業では、急性期におけるチーム・他職種への理解を深めるとともに、チームにおける理学療法や作業療法の役割を認識しどのような活動が望ましいのかをチームによる模擬症例検討を通して学ぶ。	15回
		専門職連携総合演習B	医療の高度化・複雑化に伴い各領域は専門性が高まっている。リハビリテーションは多くの専門職がチームを形成し患者・対象者に関わり、日常生活や社会参加の向上の為に関わる。この授業では、回復期におけるチーム・他職種への理解を深めるとともに、チームにおける理学療法や作業療法の役割を認識しどのような活動が望ましいのかをチームによる模擬症例検討を通して学ぶ。	15回
		専門職連携総合演習C	医療の高度化・複雑化に伴い各領域は専門性が高まっている。リハビリテーションは多くの専門職がチームを形成し患者・対象者に関わり、日常生活や社会参加の向上の為に関わる。この授業では、生活期におけるチーム・他職種への理解を深めるとともに、チームにおける理学療法や作業療法の役割を認識しどのような活動が望ましいのかをチームによる模擬症例検討を通して学ぶ。	15回